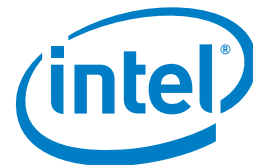


導入事例

Ultrabook™

インテル® アンデンティティ・プロテクション・テクノロジーを活用した
クライアント・セキュリティ



インターネット・バンキングに適した 推奨パソコンとして Ultrabook™ を採用 インテルのセキュリティ技術を組み合わせて 安心・安全な操作環境を実現

いつでもどこでも安全・快適に利用できる最新のクライアント・ソリューション



株式会社常陽銀行

本店所在地: 茨城県水戸市南町 2-5-5

創立: 1935年7月30日

資本金: 851 億円

総資産: 7 兆 9,820 億円

預金: 7 兆 2,666 億円

貸出金: 4 兆 9,825 億円

自己資本比率: 連結 12.78%、単体 12.43%

(いずれも国内基準)

<http://www.joyobank.co.jp/>

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

課題

- 幅広い業種のニーズに対応し、PC を初めて購入する顧客にも適した PC を選択
- より安全にワンタイムパスワードを生成できる高セキュリティの PC を選択
- 高品質の設計や充実したサポート体制が整った Ultrabook™ を採用

ソリューション

- Ultrabook™
- インテル® アンデンティティ・プロテクション・テクノロジー (インテル® IPT)¹
- Symantec* Validation & ID Protection (VIP)

導入効果

- 高い処理性能、スタイリッシュな外観、優れた可搬性など、数多くのメリットをバランスよく満たした PC の提供
- 高品質につながる国内生産や充実したサポート体制によって顧客に安心感を提供
- ユーザーが意識しなくても高いセキュリティを維持できる PC 環境の実現

地域密着の金融サービスを通じて

地域とともに日々成長している常陽銀行

株式会社常陽銀行 (以下、常陽銀行) は、茨城県水戸市に本店を置く地方銀行です。同行は、『健全、協創、地域と共に』という経営理念のもと、地域に密着した金融サービスを提供することで地域社会・地域経済の発展に貢献しています。現在は、第 11 次中期経営計画 (平成 23 ~ 25 年度) として『基盤強化プラン J-Cube』を推進しており、顧客との信頼関係を深める顧客基盤の拡充や、経営基盤の核となる現場力・人材力の強化などに取り組んでいます。

常陽銀行は、多くの顧客が安心・安全に銀行取引を行える IT プラットフォームの形成にも力を入れています。2012 年 12 月には、同行のグループ会社を通して法人・事業主向けインターネット・バンキング・サービス『JWEBOFFICE (ジェイウェブオフィス)』に適

した推奨パソコンの販売を開始しており、その推奨パソコンとして最新の Ultrabook™ を採用しています。また、インテルの高度なセキュリティ技術 (インテル® アンデンティティ・プロテクション・テクノロジー) を組み合わせることで、多くの顧客がこれまで以上に安心・安全な操作環境で JWEBOFFICE を利用できるようになっています。

業界に先駆けてワンタイムパスワードを組み合わせた 2 要素認証を導入

常陽銀行は、推奨パソコンを提供する以前からインターネット・バンキングに対するセキュリティ強化に取り組んできました。例えば、JWEBOFFICE の顧客には、従来よりセキュリティ・ソフトウェア『nProtect Netizen (ネットムーブ株式会社)』を無償で提供しています。また、2008 年 9 月には、法人向けのインターネット・バンキング・サービスとして国内初となるワンタイムパスワード認証も

ワンタイムパスワードの生成にインテル® アイデンティティー・プロテクション・テクノロジーを活用することで、さらに高度なセキュリティーを実現



「以前から推奨パソコンの必要性を感じていましたが、実際にその提供に踏み切れたのは Ultrabook™ の登場が大きな後押しとなっています。Ultrabook™ は、据え置き型に匹敵する処理性能と、いつでもどこでも持ち歩ける優れた可搬性を高い次元で両立しています。さまざまな業種のニーズに対応し、初めてPCを買われるお客様にも適しています」

株式会社常陽銀行
営業推進部 法人営業グループ
主任調査役
小林 弘幸氏

導入しています。

JWBOFFICE の顧客は、ログイン時に従来のユーザー ID とパスワードに加え、ワンタイムパスワードを生成、入力することでログインを行えます。ここでは、事前に利用登録を行うことで、PC のチップセット内にワンタイムパスワードを生成するための鍵が保存され、その PC でのみ生成と入力が行えるようになります。これにより、悪意ある者が顧客のユーザー ID とパスワードを入手しても、未登録の PC からはワンタイムパスワードを生成できず不正なログインを防止できます。

常陽銀行 営業推進部 法人営業グループ 主任調査役の小林弘幸氏は、業界に先駆けてワンタイムパスワードを採用した背景を次のように説明します。「当時、金融業界ではインターネット・バンキングの不正利用問題が話題に上がっていました。これに伴い、当行でも JWBOFFICE のセキュリティーをさらに強化する施策としてワンタイムパスワードを導入しました。現在、法人向けのインターネット・バンキングでは PKI (Public Key Infrastructure) 認証も多く用いられています。PKI 認証は、確かに高いセキュリティーを提供できるのですが、定期的な PKI 証明書の更新が必要となり、ユーザーへの作業負担が発生するといった課題もあります。当社は、お客様の利便性を損なうことなくセキュリティーを強化すべきだと考え、あえて PKI 認証ではなくワンタイムパスワードを組み合わせた 2 要素認証を採用しました」。

JWBOFFICE に『でんさいネット』の取引機能を新たに追加予定

最近では、オンライン取引に関連する話題として、電子記録債権サービスに大きな注目が集まっています。電子記録債権は、2008 年 12 月に施行された電子記録債権法に基づく新しい決済手段です。全国銀行協会の全銀電子債権ネットワーク(以下、でんさいネット)は、2012 年度中に電子記録債権サービス「でんさい」の開始を予定しています。常陽銀行をはじめとする全国 1,300 の金融機関が参加し、実績のある銀行間ネットワークを通じて取引が行われます。でんさいは、全国の金融機関で広く利用可能なサービスとなることから、急速に普及することが期待されています。

電子記録債権は、手形のような決済・信用機能と振込みによる簡便で迅速な決済機能を兼ね備えています。すべての手続きが電子的に取り扱われるため、従来の手形のように取引銀行に向いて手続きする手間が発生しません。また、支払期日に支払企業の口座から資金を引き落とし、納入企業の口座へと払い込みが行われることから、従来からある振込みのようにあらかじめ資金を用意する必要もありません。さらに、債権を分割して譲渡することも可能なので、資金繰りの安定化につながります。

常陽銀行は、でんさいの開始と合わせて JWBOFFICE の新しいサービスメニュー『常陽でんさいサービス』の提供を予定しています。小林氏は、まもなく開始される常陽でんさいサービスについて、「電子記録債権は、手形と振込のメリットを併せ持っており、債権を発行する側にも受け取る側にも譲り受ける側にもメリットがある、たいへん魅力的な決済手段です。当行は、でんさいの取引機能を JWBOFFICE に追加する予定ですが、これは JWBOFFICE そのものの普及にもつながる重要な機能強化として強い期待を寄せています」と述べています。

顧客が安心してインターネット・バンキングを始められる環境を提供

JWBOFFICE の利用者は、常陽銀行をメインバンクとする法人顧客が中心で、全取引法人のうち半数以上はまだ JWBOFFICE を導入していません。このような背景には、所有する PC の老朽化が進んでいてインターネット・バンキングに対応できない、PC は所有しているがインターネット回線サービスには契約していない、インターネット・サービスに関連する不正利用被害の報道を受けてインターネット・バンキングをあえて利用していないといった顧客のさまざまな事情があります。

一方で、でんさいが正式に開始されれば、でんさいの導入が大きなきっかけとなり、JWBOFFICE の利用が一気に促進されることが考えられます。実際、同行に預金口座を開設している顧客からは JWBOFFICE に対する問い合わせが増えてきています。小林氏は、こうした現状について、「当行のお客様にヒヤリングやアンケートを実施したところ、回答いただいたお客様のうち 70% 以上が、将

来的にでんさいを利用したいと回答されています。特に『でんさい』のメリットをご説明したお客様については、JWEBOFFICEの導入に対してたいへん積極的です」と語っています。

ただし、顧客がJWEBOFFICEの導入を決めたとしても、JWEBOFFICEに適したPC環境がすでに整備されているとは限りません。顧客の中には、JWEBOFFICEの導入と合わせてPCを新規に購入したいという声も聞かれますが、PCの専門知識を持たない顧客が適切なPCを選定することも困難です。このような理由から、常陽銀行自身が多くの顧客に適した推奨パソコンを提案することになりました。小林氏は、「日本全国の金融機関が『でんさい』サービスを開始しますが、数ある銀行の中から常陽銀行を選んでいただく意味でも推奨パソコンのご提案を決意しました。当行の推奨パソコンをご導入いただければ、JWEBOFFICEを初めてお使いになるお客様も安心してお取引できます」と述べています。

推奨パソコンには顧客のさまざまなニーズを満たせる Ultrabook™ を採用

常陽銀行は、推奨パソコンの候補として、デスクトップPCからノートブックPCまでさまざまな形のPCを検討しました。今回は、単なるPCの買い替えではなく、初めてPCを購入する比較的小規模の事業者層が中心だったことから、すべての用途を1台でこなせるPCが不可欠であると考えました。また、顧客の多種多様な利用シーンを考えると、据え置き型として使用した場合の処理能力と、持ち運び型として利用した場合の可搬性を兼ね備えていることも重要なポイントになりました。同行は、こうした数々の要件を重ね合わせた結果、推奨パソコンとしてUltrabook™を採用しています。

小林氏は、選定当時感じたUltrabook™の印象を、「最近ではUltrabook™関連のTV CMが盛んに放映されていますので、PCに詳しくないお客様にもUltrabook™とお伝えすれば、すぐにどのようなものか分かっていただけます。以前から必要性を感じていた推奨パソコンですが、その提案にまで踏み切れたのは、やはり知名度の高いUltrabook™が登場したおかげといえます。もちろん技術的な面においても、デスクトップPCに匹敵する処理性能と持ち運びに適した形状や重量



株式会社常陽銀行
営業推進部 法人営業グループ
主任調査役
小林 弘幸氏

のバランスを高く評価し、Ultrabook™が当行の推奨パソコンとして最適だと判断しました」と語っています。

この推奨パソコンには、株式会社マウスコンピューターのUltrabook™が採用されています。ここでは、マウスコンピューターが以前からコスト・パフォーマンスに優れたビジネスPCを手がけてきたという実績、国内生産による安心の品質、3年間のメーカー保証、そして常陽銀行の要望に合わせたカスタマイズを自社工場で行うことができることなどが主な選定理由となっています。同行の推奨パソコン(LB-L401B-JWEB)は、常陽銀行の関連会社である常陽コンピューターサービス株式会社によって2012年12月3日から販売が開始されています。ワンタイムパスワード生成ソフトウェアもインストールされているため、買ったその日から安心・安全な操作環境でJWEBOFFICEを利用できます。また、PCの設定に不慣れな顧客には、有償オプションの導入設置サービスも用意されています。

インテル® IPT の活用によって セキュリティ・レベルがさらに向上

この推奨パソコンでは、ワンタイムパスワードの生成にインテル® アンデントィティ・プロテクション・テクノロジー(インテル® IPT)を活用しています。インテル® IPTは、チップセット内でワンタイムパスワードを安全に生成するインテル独自のセキュリティ技術です。常陽銀行が採用しているワンタイムパスワード

常陽銀行の法人・事業主向け インターネット・バンキング・サービス 「JWEBOFFICE(ジェイウェブオフィス)」 の概要

<http://www.joyobank.co.jp/jweboffice/>

常陽銀行の「JWEBOFFICE(ジェイウェブオフィス)」は、法人・事業主向けのインターネット・バンキング・サービスです。インターネットに接続されているPCがあれば、同行口座の残高照会、明細照会、振込・振替、税金払込、口座振替といった主要な取引をどこからでも利用できます。JWEBOFFICEには、フルサービスの「統合型」とリアル系サービスのためのリーズナブルな「タイムリー型」の2タイプが用意されています。また、不正利用を防ぐセキュリティ対策として、既存のユーザーIDとパスワードに加え、ワンタイムパスワードの生成と入力を行うことで安全なログインを可能にしています。

		統合型	タイムリー型
パソコン	リアル系	<ul style="list-style-type: none"> ● 照会サービス(残高照会、明細照会) ● 振込・振替サービス ● 税金・各種料金払込サービス(Pay-easy) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 照会サービス(残高照会、明細照会) ● 振込・振替サービス ● 税金・各種料金払込サービス(Pay-easy)
	伝送系	<ul style="list-style-type: none"> ● 伝送受付サービス(1) 総合振込(2) 給与・賞与振込(3) 個人住民税納付(4) 口座振込【平成23年11月開始】 	—
	オプションサービス	<ul style="list-style-type: none"> ● I-NET代金回収サービス ● ワイドネットサービス【平成23年11月開始】 	<ul style="list-style-type: none"> ● I-NET代金回収サービス ● ワイドネットサービス【平成23年11月開始】



常陽銀行が推奨するUltrabook™
マウスコンピューター LB-L401B-JWEB

認証サービス (Symantec* Validation & ID Protection) はインテル® IPT もサポートしているため、ソフトウェアのみでワンタイムパスワードを生成していた従来の環境と比べてセキュリティ・レベルがさらに向上します。

小林氏は、インテル® IPT のメリットを、「金融機関の立場としては、まずワンタイムパスワードを普及させ、より多くの顧客に安全なお取引の環境を提供することが先決です。これに対し、インテル® IPT ならハードウェアを利用した 2 要素認証を最小限のコストで提供できますので、ワンタイムパスワードの普及に大きく貢献してくれます。また、コン

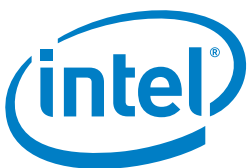
ピューターに詳しくないお客様ほどウイルスやマルウェアに感染する危険性が高まりますが、インテル® IPT に対応した当行の推奨パソコンをお使いいただくことで、お客様が意識しなくても高いセキュリティを維持できます。このように、インテルの最新テクノロジーによって支えられた推奨パソコンは、お客様に自信を持ってお勧めできる安心・安全な PC に仕上がっています」と説明します。

現在、常陽銀行の推奨モデルは顧客に向けて次々と出荷されています。小林氏は、「この推奨パソコンを通じて、常陽銀行がセキュリティ対策に注力していることを多くのお客

様にお伝えできたらと考えています。そして、それをきっかけに JWEBOFFICE を利用されるお客様がさらに増えることを期待しています。中長期的には、推奨パソコンも新しいモデルへと切り替わっていきますが、お客様が安心してご利用になれる性能や品質を備えた Ultrabook™ がまた有力な候補となるはずです」と、将来の展望を述べています。

常陽銀行は、今回発売された推奨パソコン (Ultrabook™) を多くのお客様に普及させるとともに、インテルの最新テクノロジーと対応ソリューションを組み合わせることで、さらなるサービス向上を目指しています。

Ultrabook™ に関する詳しい情報は、下記のサイトをご覧ください。
<http://www.intel.co.jp/ultrabook/business/>



¹ すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるシステムはありません。インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー (インテル® IPT) を利用するには、インテル® IPT に対応した第 2 世代または第 3 世代インテル® Core™ プロセッサ・ファミリーを搭載したシステム、および同テクノロジーに対応したチップセット、ファームウェア、ソフトウェア、インテル® IPT に対応した Web サイトが必要です。インテル® IPT に対応した Web サイトでのみ利用可能です。各システムメーカーにお問い合わせください。データやシステムの紛失や盗難など、サービス利用の結果生じたいかなる損害に対してもインテルは責任を負いません。詳細については、<http://ipt.intel.com/welcome.aspx> (英語) を参照してください。

本書は参考用です。インテルは、明示されているか否かにかかわらず、本書の内容に対する保証はしておりません。

具体的なコスト削減額や結果は、当該顧客企業、そのビジネス目標や企業環境の構成に特有のものです。ビジネス目標、ソフトウェア設計、インフラストラクチャー、または構成が異なると、実際の結果にも差が生じます。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Ultrabook は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1
<http://www.intel.co.jp/>

©2013 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。
2013年1月

328388-001JA
JPN/1301/PDF/SE/MKTG/TS